

kansei hogo kōmatsu nomi  
更生保護

# 小松能美

創刊号

2016年(仲秋号)



会長 山本 敏明

## 小松・能美両支部の保護区統一と 展望について

平成二十八年五月に開催しました小松能美保護区保護司会の定期総会において、小松・能美両支部の活動を尊重しながら、保護区活動の統一と事務の効率化を図ることが決定されました。昨年一年をかけ統一に向けた議論を重ね、実現いたしました。今年度は引き続き会則の改正を検討しているところです。

六月から「刑の一部執行猶予制度」が施行されると同時に、「社会貢献活動」が本格実施となりました。活動場所の開拓と効果的な処遇活動に取り組んでいきます。また、あやまちから立ち直ろうとする人達に「仕事」と「居場所」を確保するために、協力雇用主等の開拓にも力を入れて行きたいと思っています。

安全・安心な地域社会を実現するために、はより多くの方々の理解と協力が不可欠です。犯罪予防活動を広い世代に働きかけながら、積極的に推進するために、広報誌の統一とマスメディアの協力を得ながら情報発信に努め、更なる広報活動を展開してまいります。明るい社会の実現に向けて引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

## 定期総会の開催

### 事業と会計は保護区に統一

小松能美保護区保護司会定期総会は、五月十日午後二時二十分より第一コミュニティセンターで来賓六名、保護司五十八名中三十九名が出席(委任状十二通)して開催され、提出議案はいずれも承認された。課題だった支部の統合については、今年度から事業と会計が保護区に統一されることになった。会費十七万円・実費弁償金

## 今年度の事業計画

- 厚労省主催『薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン』に協力六月二十六日イオン小松店
- 【総理大臣社明メッセージ】の伝達七月一日各市町庁舎
- JR四駅街頭キャンペーン七月十一日
- 北部児童センター主催『キッズフェスタ』に協力七月十八日市民センター
- 社明啓発広報車に搭乗街宣活動七月 中各市町内一円
- 県心の教育主催「グッドマナーキャンペーン」に協力九月十二日から十六日 各中学校門
- 社会参加・貢献活動十月七日育松園
- 視察研修十月二十日富山ダルク
- 新任保護司研修十一月九日(定例研修後)
- 薬物乱用防止自主研修十一月二十五日
- ケース研究会十一月二十九日芦城中二年
- 新年一泊自主研修二月九〜十日おびし荘
- 定例研修六月九月十一月三月
- 統一広報誌『更生保護小松能美』の発行(題字は石野華鳳氏)、九月創刊号・三月第二号各千部印刷(保護区保護司とOB・更女・BBS・県内更生保護団体に配布)、『能美更生保護』十一月発行
- 学校との連携 小中学校訪問(作文コンテスト応募・社明ポスターの校内掲示依頼、学校関係者と懇談)
- 県更生保護顕彰式典十月二十五日県地場産業振興センター
- 定例総会五月、定例理事会(四月・六月・九月・十二月・三月)、保護司候補者検討協議会(七月・二月)、総務部会・四事業部会・能美支部会・小松支部分区会は随時開催

百八十二万円・補助金五十二万円・助成金九十二万円・繰越金三十五万円等の収入計三百七十八万円は保護区会計に入れる。事業は保護区四事業部会(犯罪予防・研修・広報・協力組織)が中心となる。支部組織は地域活動の拠点として保護区活動を支える。

また、事務局も、隣の部屋が保護司会として使用できることになり、机椅子を新しく購入した。今後、部会等の会議や情報交換、更女・BBS会との交流の場としたい。



### 立ち直りを支える 地域のチカラ

金沢保護観察所  
所長 松本 裕伸

広報誌更生保護「小松能美」の創刊おめでとうございます。小松能美保護区保護司会の皆様方には、日頃から更生保護事業に深い御理解と御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

近年、犯罪の六割は再犯者によるものと言われており、更生保護の分野では犯罪者や非行少年の再犯防止のため、大切な「仕事」と「居場所」の生活基盤の確保に努めています。

そのため、更生保護での取組として、無職の保護観察対象者に対する就労支援、帰るべき場所がないまま刑務所等から釈放される者に対する住居確保を進め、昨年度から本格実施となった社会貢献活動を行い、成果を上げています。



### 仏陀の教えに学ぶ

陶芸作家 北村 隆

私は一九八八年四月に自宅で法話会を開催しました。その一年前に他界した母との約束でした。東大寺清水公照管長に法話を依頼し、町内の方々二五〇名を招きました。

その後、「こころの休日講座／人生を語る」として今年で二七回目を迎えることになりました。この講座はお釈迦様が言

また、本年六月から施行された刑の一部の執行猶予制度につきましては、薬物事犯者の再犯防止に力を入れ、薬物依存症等の対象者の社会復帰には、官と民が協力し、息の長い援助を行うことが欠かせません。そのためにも、「つなげる」「ひろげる」「つづける」という思いで、今以上に地域社会との連携を密接にしていきます。

保護司の皆様は、地域社会で犯罪や非行をした人たちの支えとなるかけがえのない存在です。これからも一緒に歩んで参りたいと思います。

最後に、こまつまちづくり交流センター内にある更生保護サポートセンターが、保護司の皆さんはもちろんのこと、更生保護ボランティアの皆さんが気軽に立ち寄れる憩いの場として、より多くの方が利用することを期待しています。

今後この広報誌が、更生保護を担っている皆様の貴重な資料となることを祈念し、発刊に際してのことばとさせていただきます。

われた「自分のできる範囲で徳を積み」の教えに従って継続しています。この会を続ける中で東大寺・薬師寺の高僧の教えに学びながら、また知り合う人々との交流で、今では自分自身の勉強であると思うようになってきました。

奉仕活動は徳を積み、体を使って人を助けることだと考えています。私は社会を明るくするチャリティー活動にできる限り自分も協力したいと思っています。保護司さんが理念を持って仕事されていることはお釈迦様の教えに添っていると思います。

## 第39回 有名作家チャリティ作品展

社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が金沢市「めいてつエムザギャラリー」で七月三日〜八日に開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた地元の家のご協力を得て、作品はご来場者の皆様方の入札により、売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。期間中、県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者でいっぱいでした。



- ◇「寄贈された方々」(敬称略)
- ◇工芸の部 打田 幸生・三ツ井為吉・浅蔵五十吉・新藤 晋・浮田 健剛  
山中 国盛・高 権成・北村 鶴代・下道 良平・中田 一於
- ◇絵画の部 藤田 弘・田方 勇・北 長八・和泉 洸・東 孝太郎  
後出 秀茂・池岡 信・松村 芳明・西房 浩二・斉藤 敏明
- ◇書の部 都賀田久馬・相神 眉鶴・福田 茂樹
- 吉田 美統・北村 隆・長谷川紀代・田村 敬星・徳田八十吉
- 村中 曉美・北村 英昭・糠川 孝之・米田 和・野村 大仙
- 山岸 大成・故越田健一郎

### 第一期定期研修

六月二日午後一時三十分から第一コミュニティセンターで行われ四十名が参加した。研修会の前に、宮越美幸保護観察官から八名の保護司に再任通知が手渡された。

今回は「良好措置・不良措置」という研修内容で講義を受けた。措置の目的は「その改善更生のために必要かつ相当な限度において、厳格な姿勢と慈愛の精神をもって、適時・適切にとること」としている。対象者の処遇には難易により区分

した四つの処遇段階がある。良好措置として、一号から四号対象者に対する「解除」「退院」「不定期刑の終了」「仮解除」等の措置があり、不良措置として、一号から四号対象者に対し「警告」「戻し収容」「仮釈放取消」「刑の執行猶予の取消」等の措置がある。担当保護司としては、更生意欲を喚起する措置について理解を深めることができた。

研修終了後、一斉部会を開催し、二十八年度の事業計画を立てた。

# 7月は社明運動強調月間

## \*\*\* 社明運動伝達式・出発式 \*\*\*

法務省主催第六十六回「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した人の立ち直りを地域のチカラで支えていこうという運動です。

スタートの一日、小松支部では、保護司会役員と更女会長の六名が市役所を訪問して、総理大臣メッセージを竹

村副市長と梅田議長に伝達した。

幸せの黄色い羽根を胸に付けて記念の写真も撮った。

その後、市庁舎前で社明啓発広



報車の出発式をした。能美支部では、一日午前中に保護司が市と町二台の広報車に乗って、社明運動の街宣活動をした。午後は更女と共に高塚副市長と前町長にメッセージを伝達し、夕方には、四地区の公共施設前で啓発ティッシュを配った。

## \*\*\* キッズフェスタ2016 \*\*\*

七月十八日十時から市民センターで開催された北部児童センター主催の「キッズフェスタ」に、保護司十二名・更女五名が参加した。

昨年までは社明チラシとティッシュの配布活動中心だったが、今年、「日本中でおえかきホゴちゃん」の取り組みにも参加した。次世代を担う子どもたちが「更生ペンギンのホゴちゃん」の絵を描くことを通じて、

社明運動や更生保護に対する理解と協力を促進することを目的としている。

ホールの一角におえかきコーナーを設けると、親子連れが次々と訪れクレヨンやマジックを使って、ホゴちゃんマンガの絵本を見ながら描いていた。当日は一時三十分までに、チラシ九百枚を配布し、ホゴちゃんの絵四十五枚が集まった。

## \*\*\* JR四駅街頭キャンペーン \*\*\*

七月十一日朝七時から八時まで、栗津・小松・明峰・能美根上の四駅前で、小松能美保護司会二十八名、更生保護女性会十四名、BBS会一名が参加して、社明運動のキャンペーンを実施した。幸せの黄色い羽根を胸に付け、のぼり旗を持ち、襷をかけて、一千六百枚の社明チラシとエコティッシュをクリアファイルに入れて配った。

「社会を明るくする運動です」「犯罪のない社会を作るための運動です」と積極的に声をかけて、非行防止の啓発用品を手渡した。

乗降客の多い時間帯であり、高校生も多く利用しているので、大きな効果を期待している。八時に記念写真を撮って無事終了した。今年で二年目になるが、「継続は力なり」で今後も続けていきたい。



## ● 薬物乱用防止キャンペーン ●

薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動として、今年度も六月二十六日に薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーンが「イオン小松店」で、保護司会、BBS会、更生保護女性会、薬剤師会、ボイスカウト他多くの関係の皆さんの参加で実施された。

開始宣言に引き続き内閣府特命担当大臣のメッセージが披露され、参加者は店舗各入口で来店者にティッシュペーパーなどの啓発用品を配布し、「薬物乱用のない明るい社会を作りましょう。」と声をかけをし、併せて国連支援募金活動も行った。午前の一時間という短い時間であったが、休日で家族連れも多く、薬物乱用の根絶に向けて、この運動が少しでも地域の方々へ広がるよう理解と協力をお願いした。

また、能美支部では七月三十一日に根上総合文化会館で開催された能美市ボランティアフェスティバル会場で、昨年に続いて薬物防止キャンペーンを実施した。





## 支部だより

創刊号から小松と能美支部の独自の活動をお知らせし、お互いの交流を深めるために支部だよりをお届けします。二つの支部ではそれぞれ独自の活動も行っています。

### 小松支部だより

事業と会計が保護区に移行したため、支部独自の事業は今のところ実施予定がありません。小松支部は、四十五名が北・東・南・中の四分区分に分かれ、保護区事業の実施母体になっています。分区分会は、保護区事業の具体的実施計画を立て、情報交換と親睦を兼ねて、随時開催しています。

### 能美支部だより

「能美支部」は十四名の保護司で構成され、活動場所として根上、寺井、辰口、川北地区に分かれ、それぞれ連携を取り合い、支部全体として組織的に活動をしています。また地域の女性の立場から、犯罪予防の活動や子ども達の健全育成のための子育て支援活動に力を注ぐ、会員三〇〇余名を数える「能美地区更生保護女性会」や「小松能美地区BBS会」との協力関係も大きな力となっています。

#### ○学校訪問活動

社明運動期間中の七月上旬、四地域毎に地域の保護司や更生保護女性会役員が参加し、地域の小中学校を訪問しました。学校側から校長、教頭の方々が参加され、学校生活の現況や指導の重点等を聞くことができました。一方保護司、更生保護女性会の皆様からは、地域でみる子供たちの姿、通学時の挨拶の様子など、各学校からはそれぞれの思いが話され、実りある会合になりました。

また、寺井高校へは、昨年続き、七月十九日に支部役員四名が訪問。高校長と一時間ばかり面談しました。江指肇校長から生徒たちの学校生活の様子、進学、就職の問題、現代の世情と高校生の姿等、幅広く話し合うことができ、良い会合になりました。

## 各部の報告

#### ○総務部会

保護司会サポートセンターが開設して以来、小松能美保護区としての活動も徐々に動き出し、ともに活動する中で一体感も生まれるという声も聞こえています。総務部もこの機運を大切に、全体を意識しながら各部の連絡調整・支援をしながら、組織的運営に心掛けたい。今は活動に見合った規約改正と来年度役員の改選に向けて取り組み中である。

#### ○研修部会

今年度は、十月二十日の富山ダルクでの視察研修と、十一月二十五日の薬物乱用防止研修に力を入れた。この六月から「薬物使用等の罪を犯したものに對する刑の一部執行猶予制度」が施行され、この研修が重要になる。一月九日・十日のおびし荘での一泊研修も、研修と親睦を兼ねているので、コミュニケーション作りの場として大切にしたい。課題だった定例研修の出席率も、声掛けと自覚のおかげで上昇し安堵している。

#### ○犯罪予防部会

今年度はJR四駅街頭キャンペーンと、ケース研究会を二本柱として活動しています。JR四駅街頭キャンペーンでは、栗津駅、小松駅、明峰駅、能美根上駅で、クリアファイル、社明チラシ、ティッシュを配布し、「社会を明るくする運動」を呼びかけました。ケース研究会は十一月二十九日に芦城中学校二年生を対象に

DVDを視聴し、その後保護司を交えて話し合いの場を持ちます。

七月の、社明月間には、社明運動総理大臣メッセージ伝達式、社明街宣活動、小中学校への作文コンテスト応募の依頼、ポスター配布、学校との懇談などを実施しました。

今後は、グッドマナーキャンペーン協賛、「早寝早起き朝ごはん」大会協賛などを予定しています。

#### ○協力組織部会

更生保護女性会、BBS会などの関係団体との連携や就労支援を担当します。また、昨年度から実施された社会貢献活動の対象者を担当する保護司に對しての支援活動を行います。支援内容は、六か月間に五回行う貢献活動の場所や活動内容の企画に積極的に参加協力します。十月七日に育松園で清掃活動を行います。総務部会や観察所、保護司会の皆様のご指導をお願いします。

#### ○広報部会

七月二十日にサポートセンターの新しい会議室で、広報委員八名が第一回編集会議を行いました。広報誌創刊号発行に向けて編集方針を協議しました。年二回(九月末日と三月初旬)発行する事にし、ページ数は六ページ。行事活動や各部会の活動内容も、より充実しわかりやすく読みやすい紙面にしていきます。また「更生保護小松能美」の題字も新たに、事務局の福田緑さんの娘さん(石野華鳳氏)に依頼し、広報委員が三作品から話し合い決定しました。

# 保護司会とのパートナー紹介

保護司会は犯罪の防止と社会を明るくすることを目的に様々な活動を進めていますが、こうした目的の実現には保護司会だけで達成できるものではありません。私達の保護区でも保護司会と地域社会、小中学校や高校などの連携が不可欠です。中でも更生保護女性会やBBSの皆さんとのチームプレーが大切です。今回の創刊号では、小松と能美の更生保護女性会の中谷・南両会長さんと小松能美地区BBS会 山形会長に寄稿いただきました。

## 先輩からの思いを繋ぐ



小松地区更生保護女性会  
会長 中谷 純子

小松更生保護女性会は昭和四十八年六月に設立され、諸先輩の皆様方によつて今日に引き継がれております。発足以来、隠れた更生の支援を行い、地域の住民の皆様と共に、更生保護ボランティア活動が出来ることを誇りとされてきました。

現在は地域全体が自治体と共に子どもたちを健全に育てるための取り組みをしております。地域が抱える少年非行や不良環境の問題にも目を向け「ミニ集会活動」、更に「子育て支援活動」では小松市担当課のご協力で連携を取りながら取り組んだ「早寝早起き朝ご飯」活動も十二一年間に及びます。生を得て仕合せの日のありたりや名を消されたる囚人の墓、全国で唯一の獄死者の墓掃除も数十年前から続けており、今年も松本金沢保護観

察所長さんが慣れない手つきでお手伝い下さいました。西浦名誉会長(興善寺前坊守)の講話で幸薄き人々を思い、唯々わが身に感謝でした。

更生保護女性会は明るい社会をめざし、過ちに陥った人たちの更生のための支えとなる女性として実に素晴らしい仕事ではないかと思えます。今後も先輩の思いを胸に活動が続けていきたいと思っております。保護司会、BBSはじめすべての地域の皆様方のご協力を心よりお願い申し上げます。

## 明るい社会のお手伝い



能美地区更生保護女性会  
会長 南 美紀子

能美地区更生保護女性会の会長になつて、数ヶ月が経とうとしています。私自身、更生女会の会員となり地域の役員から会長となつて、今の地区会長になりましたが、まだまだ未熟で分か

## 小松能美地区BBS会の活動



小松能美地区BBS会  
会長 山形 友希

BBSは、様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として健全に成長していくのを援助するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体です。石川県BBS連盟には、珠洲・七尾・鹿島・河北・金沢市・小松能美の六つの地区会が構成され、それぞれ地区会が特色のある活動を行っています。

- 主な活動は、
- ① グループ活動。少年達とスポーツやレクリエーションなどを行い、共に何かを楽しむことにより、少年達が心を開ききつかけになればと考えています。
  - ② 非行防止活動・健全育成活動。非行を起こさせない社会環境づくりのための活動を行っています。さまざま

広報活動や各種のイベント、集会などを地域で実施し、犯罪や非行のない明るい社会の実現に努めています。

③ **ともだち活動**。保護司さんの依頼により少年たちの話を聞き、よき友達となり、非行を起こさせないようにする活動です。

現在小松能美地区会の活動は健全育成活動が主で、今年度も児童館活動を行い、子ども達の「また来てくれたよ」「また来てね」などの元気な声を励みに頑張っています。今年度来年度と、自主事業としての健全育成活動も考えており、会員数が少ないのが悩みですが、頑張つて活動していきたいと思っております。



(5月5日 子供交流センター)

らないことばかりで、先輩方や役員の皆様に支えられて今日に至っております。

能美地区更生保護女性会は、他の地区にない活動がいろいろとあり、少年院湖南学院(金沢市)の奉仕作業もその一つです。川北、辰口、寺井、根上の四地域がそれぞれ一日奉仕作業を行います。作業はシートのミッション掛け、名札付けなど、その日によって変わりますが、各地域十名程で、ミシン、アイロン、裁縫道具持参で、午前午後作業を

行います。参加された方は皆さん行つて良かった、少しでもお手伝いが出来た、と満足して帰つて来ます。なるべく多くの会員さんに、更生女会の活動にふれていただきたく、奉仕作業に参加して、実感してほしいと思つています。又、地域の実情にあったミニ集会をめざしており、理事が中心になつて、地域との連携、協働活動を行っています。さまざまな場所での活動が、少しでも明るい社会へのお手伝いになればと願っております。



教育現場からの声

板津地区小中学校が願う  
子供の姿



小松市立板津中学校  
校長 竹本 良成

板津地区には一つの中学校と三つの小学校(大丸小学校・荒屋小学校・能美小学校)があります。現在、四校が「学びの組織的実践推進校」として県教委から研究指定を受けています。そのねらいは、小中連携による学力向上です。

今般、学力向上がどの学校においても重要課題として取り上げられています。授業

・ 困難にチャレンジする子供  
・ 学力をつけることは、子供たちが将

来への展望を開くために大切なことであり、非行防止にも重要な要素と考

以前のところがしつかりしていないと  
うまくいけません。たとえば、いじめが  
起きにくい居心地のよい学級であるこ  
とや、将来に希望が持てる進路学習(キ  
ャリア教育)ができてきていることなどがあ  
ります。

板津地区では「板津地区小中学校  
が願う子供の姿」を作成しました。こ  
れは、九年間を見通して、小学校と中  
学校がこんな児童・生徒を育ててい  
うとするものです。

本校は、社明運動による作文コンテ  
ストに参加しておりますが、今後は、  
保護司会との定期的な懇談等により、  
連携を一層深めて参りたいと思ひます。  
よろしくお願ひ申し上げます。

新任保護司として



保護司 南 知子  
本年、新任保護司に  
なりました南 知子と  
申します。

このお話をいただいた時、元保護司の方からお話を聞く機会があり、私の様なものが人様の人生を背負えるのか、また面接等の時間をとれるのかと不安要素しか感じられず、やはりお断りしようかと思つていました。しかし現役の保護司の先輩から、広報活動・啓発活動など今出来ることをやってみてもらえばいいと仰つて頂き、それなら私にもお手伝い出来ることはあると思ひ、お受けする気持ちになりました。

退任に念う



今般、三十年間保護  
司を務めさせて頂き、  
五月二十四日に観察所に於て、法務大臣の感謝状と記念品を所長様から頂き、

今般、三十年間保護  
司を務めさせて頂き、  
五月二十四日に観察所に於て、法務大臣の感謝状と記念品を所長様から頂き、

実際研修に出て保護司の活動を学ばせて頂き、大変さと同時にやりがいも感じた次第です。  
今の仕事上、なかなか時間の束縛で皆様と同じような活動は出来ないかもしれませんが、今の自分に出来ることを精いつばい務めさせて頂けます。  
今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

たいへん有難く、またなつかしい方々の顔もあり、良い一時をすごさせて頂き有難く思ひました。また私は三十年間、色々な方々に遇い、色々な事を勉強させて頂きました。特に少年が多く、立ちなおるためには、母親の協力が無いとだめだという事を強く感じました。それによつて、ほとんどの少年が立ちなおり、私は良い少年ばかりを持つことが出来、幸せ者と思つています。特に少年の非行のものは家庭にあると思われれます。昔から親の姿を見て子供は育つと言われれますが、その通りではないかと思ひます。両親がそろつていなくても、いてもそれは関係ない事です。これからますます保護司の仕事は大変だと思われれますが、家庭を訪問し、母親を立ちなおりの協力者にする事が大事です。

合掌

小松能美保護区保護観察件数等/8月度の増減比較表

単位(件)

| 種別    | 1号<br>家庭裁判所<br>で処分を受けた者 | 2号<br>少年院から仮<br>退院を許され<br>た者 | 3号<br>刑務所から仮<br>出所を許され<br>た者 | 4号<br>刑事裁判所<br>で刑の執行を<br>猶予され保護<br>観察に付され<br>たもの | 環境調整<br>保護観察前<br>に要する、身<br>元引受人及び<br>居住環境の適<br>否調査と調整<br>作業 |
|-------|-------------------------|------------------------------|------------------------------|--|---|
| 平成27年 | 7                       | 1                            | 1                            | 10   | 8   |
| 平成28年 | 19                      | 0                            | 1                            | 10   | 8   |
| 増減    | 12                      | -1                           | 0                            | 0  | 0   |

最近の保護観察件数等の動向 (保護観察官 宮越 美幸)  
当保護区では、成人事件は変動なく、少年事件はこの半年間で激増している。成人事件は、高齢者、生活困窮者、精神面の問題を抱えた対象者がいる状況は相変わらずであり、引き続き関係機関等との連携が必要である。

編集後記

社会を明るくする運動つて、何ですか?とよく聞かれます。幸福の黄色い羽根を付けて、もっともつと社会に普及させたいですね。多くの皆様方のご協力により、創刊号をお届けする事が出来ました。心より厚く御礼申し上げます。魅力ある紙面編集に努めます。 広報部長 石田

※お問い合わせ 事務局

TEL: 四六・五一〇五  
FAX: 四六・五一〇八

発行日 平成二十八年九月二十日  
発行 小松能美保護区保護司会  
印刷 マルト株式会社